

奈良県道路整備委員会（第5回）議事録

日時：平成31年3月22日（金）

10時00分～11時40分

場所：奈良県文化会館 集会室A・B

■委員からの主な意見

【嘉名委員】

- ・周辺まちづくりとの連携について、奈良IC周辺での土地利用の説明があった。地域によって考え方に違いはあるが、調整区域での地区計画など、整備のスピードを求める傾向にある。一方で、道路整備と周辺の企業立地を進めていく考え方は良いが、周辺環境との調和を念頭においた対応も必要。
- ・最近の類似計画では、自動運転やICT等の最先端技術への対応を打ち出しているところもあるが、奈良県ではその対応や取り組みについてどのように考えているのか。

【事務局】

- ・最先端技術への対応については、国の動きや社会情勢の流れなどを踏まえ、今後も情報収集を行いながら、取り組んでいきたいと考えている。

【宇野委員】

- ・自動運転については、現在、技術がいろいろな形で生まれつつある状況。今後、どのように進んでいくのか様子を見ながら検討すれば良い。

【塚口委員長】

- ・自動運転は、現段階では不確定な点が多いところではあるが、アンテナだけは十分に張っておいてほしい。

【服部委員】

- ・「安全・安心を支える道路整備」は、住民の関心も高いところであり、新たな柱立てとしたことで、より目につきやすくなった。また、内容についても非常に良い。
- ・維持管理の面では、法定点検の1巡目が今年度で完了するため、これまでやってきた点検を十分総括し、2巡目に活かしてほしい。
- ・電柱の倒壊による道路閉塞への対策について、方針が示されたことは良いことであるが、その他にも道路の付帯設備や舗装等、周辺設備の対策も含めた細やかな整備を進めていただきたい。
- ・交通流動の変化を把握する調査について、交通流動調査と併せて設備の調査も一緒に効率よくできないか。監視装置などを設置すれば、災害時の情報収集にも役立つと思う。

【植田委員】

- 新たな交通システムの導入検討については、インバウンドを想定した対応かと思うが、奈良県は高齢者の割合が非常に高い県でもあるので、利便性が高いラストワンマイルの移動サービスの実現等、高齢者を対象とした施策に取り組みられた方が良い。

【宇野委員】

- 提案されている改定案については、特に安心・安全が充実しており、よい方向性となっている。
- 平地部の大和平野について、骨格幹線道路のネットワークとして、第二阪奈道路と京奈和自動車道をつなぐ検討を行うとあったが、それとともに南北方向の路線の強化という点では、東西方向の第二阪奈道路や西名阪自動車道等の幹線道路間をつなぐという意味で、グリット化やラダー化することにより強化していく考え方もある。
- 紀伊半島アンカールートにおいては、接続先である近畿自動車道紀勢線が全線事業化されたことから、整備のスピードアップが重要となる。
- 山地部の補助幹線的な道路に対する整備の考え方について、例えば、防災対応の面では法面や盛土の強化などによる道路の頑健性の向上などについて、もう少し追記すべき。

【西代理委員】

- 市町村の立場でいうと、「生活空間における道路環境整備の推進」において、道路の路肩に土砂が溜まったり草が生えていて、路肩を自転車が走れない状況があったり、大雨時に冠水するなど、今ある道路の能力が発揮されていないことがある。日常の維持管理についての内容があってもよい。
- 今後、本計画が定まってきた時期に、各市町村に対して計画の説明や周知をお願いしたい。

【井上委員】

- 「観光振興に資する道路整備」について、公共交通を補完する交通手段やパーク&ライド施策、バスロケーションシステム等、いろいろなツールが示されているが、それぞれがうまく連携し、結節点としてマネジメントしていくということが今後の課題。
- ICTやビックデータを活用しつつ、どうコントロールしていくのかをこれから5年かけて検討していく段階と思う。また、いろいろな調査を踏まえた上で、公共交通施策をうまくつないでいけるような仕組みを提示していくのが次の5年の時期になる。
- まちづくり協定については、地域の実情に見合った計画や整備が展開されているかと思うが、広域的な道路や公共交通の計画と個別のまちづくりの計画がうまくリンクしていくのかをマネジメントすることは、県としての役割。

【原委員】

- 紀伊半島アンカールートが、県内ネットワークとなっているが、紀伊半島アンカールートは、和歌山県や三重県も含めたネットワークであることから、「県内ネットワーク」

という表現を変えた方が良いのではないか。

- ・「北部・南部における縦軸と横軸の最適化」の表現について、奈良県は一般的に北部・中部・南部で3分割されているため、北部と中南部という表現が良いのでは。

【桑原委員】

- ・「安全・安心を支える道路整備」について、防災対策として無電柱化が挙げられているが、災害時に一番問題になるのは信号機の滅灯である。信号機が滅灯するのを防止するために電源装置が付いた信号機を設置する取り組みを、幹線道路から徐々に進めている段階であるが、今後さらに進めていく必要がある。
- ・一方で信号機の老朽化対策としてストック管理が必要であり、新たな道路ができれば、旧道は交通量が減るため、信号機の撤去も検討する必要がある。また、災害時の対策という面からも、ラウンドアバウトも含め検討いただきたい。
- ・高齢者対策については、警察の方でも対策を進めていかななくてはならない。通学路の安全対策では、「奈良県通学路安全対策推進会議」を設置して進めていただいております。今後は、交通安全に限った会議であったが、昨年の新潟県での事件をきっかけに、通学路の防犯も含めた対策を進めていかなければならない。

【塚口委員長】

- ・「新たな事業展開箇所については今後検討」となっているが、いつ示されるのか。また、今後のスケジュールについて、本日の資料のどの部分を活用してパブリックコメント案とするのか、そのプロセスを説明してほしい。

【事務局】

- ・新たな事業展開箇所については、計画の巻末資料の中に掲載していきたいと考えている。
- ・今後のスケジュールについて、次回委員会はパブリックコメント後を予定。パブリックコメント案に関しては、今回の資料内容をベースに、本日いただいたご意見を反映した形でまとめ、文章化したものをパブリックコメント案とする予定。また、事前に委員の皆様にご説明した上で、パブリックコメントを実施したいと考えている。

【本日の議論のまとめ（委員長まとめ）】

- ・本日、各委員からいろいろな意見をいただいたので、できるだけ、今回の意見を反映したパブリックコメント案の作成を進めてほしい。
- ・パブリックコメント前に各委員に説明や情報提供をお願いします。
- ・次回の第6回委員会で最終的なレポートが完成できるような形にもっていききたいと思うので、よろしくお願いします。